



1【豪徳寺】井伊家の菩提寺。招き猫発祥の地としても有名。 2【井伊直弼の墓】都史跡にも指定されている井伊直弼の墓。 3【松陰神社】吉田松陰を祀る幕末ファン必訪の神社。 4【松下村塾】萩の松下村塾を復元した建物。神社内に建てられている。 5【松陰の墓】高杉晋作らが故郷の松下村塾に似ているだろうと、回向院からこの地へ改葬。横には頼三樹三郎ら松陰の同志が並んで眠る。 6【桂小五郎寄進の鳥居】明治維新が成り、新政府の重役となった桂小五郎（木戸孝允）が松陰の墓を再建。その際に寄進した鳥居が残っている。 7【徳川家奉納の石灯籠】徳川家が過去を詫びて奉納した石灯籠ほとんど消えかけているが笠の部分に菱紋が残る。また近くには同じく徳川家が奉納した水盤もある。 8【萩・世田谷幕末維新祭り】毎年秋に行われる幕末維新祭。パレードから公演まであり大勢の人が集まる。

# 身はたとひ 武蔵の野辺に朽ちぬとも 留め置かまし大和魂!!

吉田松陰辞世の句

## 近くて遠い世田谷の二つの史跡

### 井伊と松陰、不思議な因縁

近頃、連日話題となっている教育基本法の改正問題。そこで度々、理想の教育者として国会でも名前が挙がるのが吉田松陰だ。松陰は現総理の出身地、長州で「松下村塾」を開き、高杉晋作や伊藤博文など多くの才能を見だし育てた。幕末の動乱を乗り切るには武士のみではなく農民らも一丸となって立ち上らなければならぬ。そう説いた松陰は、身分に分け隔て無く徹底した

平等主義で授業を行い、そしてここで学んだ多くの志士たちが維新を導いていったわけだ。

また松陰の行動力も凄まじい。日本を守らなければという強い信念を持つ一方で、異国というものを自分の目で確かめてみたいという素直な気持ちも抱いて黒船にまで乗り込んでいた。結局、これは断られるのだが、この行動一つからも松陰が単なる排他的な攘夷思想ではないことが分かる。ともあれ、このような思い立ったらすぐとい



った行動力や、松陰の精神は常に人々を魅了し続けていった。そんな松陰は、かの有名な「安政の大獄」において井伊直弼に危険分子と見なされ斬首に処されている。後にこの恨みを持ち続けた松陰の門下生らが朝廷に工作し、幕府に安政の大獄での刑死者を恩赦させることに成功している。それ

# SHOIN YOSHIDA

高杉晋作や伊藤博文など数多くの  
維新の原動力を育てた松陰。  
安政の大獄で斬首さるも  
その教えは脈々と受け継がれていった!!

みさわとしひろ デザイン・イラスト制作を生業とするかわら、見つけた銅像は三六〇度写真に収めるというコンセプトのもと日々幕末スポットに繰り出してはコレクションを続ける。  
web site「絡線堂」→http://karakurido.net

によって高杉晋作らは松陰の遺体を処刑人の埋葬される「回向院」より掘り出し、現在の世田谷区に改葬したのだ。それが現在の「松陰神社」である。

この神社に眠る松陰の横には頼三樹三郎など同じく安政の大獄で殺された同士たちも埋葬されている。一時期、長州勢力が弱まり松陰の墓は幕府に潰されたりしたのだが、維新を迎え桂小五郎（木戸孝允）によって再建された。墓の入口にはその時、桂が寄進した鳥居が残り、さらに面白いのがちょうど松陰らの墓の前に、徳川家からのお詫びとして奉納された石灯籠なども残っている。また境内には萩にある「松下村塾」の復元まであり、松陰ファン必訪の地となっており、とくに毎年秋に行われる「萩・世田谷幕末維新祭り」は大勢の人で盛り上がりつつある。ところで、この松陰神社からわずか徒歩十分ほどにある豪徳寺に、逆に松陰ファンが憎き敵が眠っているのがある。安政の大獄の主導者、井伊直弼である。豪徳寺は井伊家の菩提寺であり、偶然とはいえ、この二つの史跡には不思議な因縁を感じる。

## いざ、松陰巡礼の旅へ 処刑場跡には重い空気が漂う……

それでは逮捕されてから、処刑までの松陰を追ってみる。長州の萩で逮捕されて江戸に送られた松陰はすぐに取り調べを受けた。ここで松陰は、この場こそ自分の主張を説くチャンスだと執念をはじめた。奉行の中には感動を覚えた者もいたが、この時うっかりと「自分は老中の暗殺計画を企てた事すらある」と自白してしまったのだ。結局松陰はこれが原因となり、そのまま伝馬町

現在、日本橋の伝馬町の処刑場跡には、明治元年に受刑者を吊うために建てられた大安楽寺があり、松陰らを供養するための延命地蔵が鎮座している。またこの大安楽寺のすぐ向かいにある十思公園には「吉田松陰終焉の地」の碑があり、多くの幕末の志士に感動を与えた松陰辞世の句「身はたとひ、武蔵の野辺に朽ちぬとも、留め置かまし大和魂」が刻まれている。

斬首された松陰の遺体は門下生達によって小塚原の回向院に埋葬された。小塚原は有名な刑場であり、回向院はその小塚原や伝馬町での刑死者を吊うために建てられたものだ。国事犯扱いの罪人は大抵ここに埋葬されたという。

早速、向かってみると、南千住の駅からすぐに見える巨大な徳川葵紋の建物、これが回向院である。中には松陰の墓をはじめ、橋本左内など同じく安政の大獄で処された志士たちが眠っている。他にも回つてみると鼠小僧次郎吉など有名な盗賊たちの墓も発見。さすがに罪人を吊う墓地である。

また、杉田玄白らが翻訳した「解体新書」の碑もある。ここでは時折、罪人の死体解剖が行われ、医学の勉強の場になっていたのだ。松陰と同じ長州の大村益次郎も医学を学んでいた際、ここで女性の処刑の解剖を行っている。

さて、この回向院からわずかに二、三分歩いたところが小塚原の処刑場跡である。この場所、異様に空気が重いのだ。高架下の路地奥に狭く閉ざされこの場所は現在、延命寺となっている。ここはもともと回向院の一部であったが貨物車の線路工事のために現在のように分断された。なお、この工事の際、おびただしい数の人骨が出てきたという。「小塚原」の地名も「骨ヶ原」

から来ているという説もあり、そんな事もあってか、この一帯は非常に重い空気につつまれている。入口付近にある看板によると、ここでは二十万人以上が処刑されたという。さらにその遺体も埋葬とは名ばかりで、軽く土をかぶせただけなので雨がふると遺体は露出し、犬などが食いあさつたとある。実際にリアルな描写が、これまた怨念のこもったような色あせた看板に筆字で書かれている。非常に怖い。

そんな中に四メートル程もある大きいお地蔵様が鎮座されている。その名も「首切り地蔵」といい、一七四一年に刑死者供養のために安置されたという。江戸時代の罪人たちは斬られる前に最期にこの首切り地蔵を見ていたわけだ。さすがにこのお地蔵様は穏やかな顔で怖さはなかった。

しかし、そろそろ帰ろうと何気に足下を見ると、お地蔵様の首が転がっていた。ゾッと急いでその場を去った。後で調べたのだが、この辺一帯は有名な心霊スポットだとか。ああ恐ろしい。



足下に無惨に転がっていたお地蔵様の頭。何故か胴体部が見あたらない……



9【伝馬町石碑】地下鉄小伝馬町駅前に建つ石碑。かつてこの駅界隈の約2700坪が牢屋敷であり、松陰もこの地で斬首となった。 10【延命地蔵】伝馬町の処刑場があった場所には大安楽寺が建ち、松陰ら刑死者供養するための延命地蔵が鎮座されている。 11【松陰終焉の地】伝馬町の処刑場のすぐ向かいにある十思公園には松陰終焉の地碑が残る。 12【回向院】小塚原に建つ回向院。伝馬町や小塚原で刑死になった重罪人はたいがいここに埋葬された。巨大な徳川葵紋が目立つ。 13【松陰の墓】回向院にある松陰の墓。ここから世田谷の松陰神社に改葬された。 14【橋本左内の墓】同じく安政の大獄で処された橋本左内の墓も回向院にある。 15【小塚原の看板】小塚原処刑所跡に建つ延命寺の看板。当時の様子がリアルに描写されているのだが、この看板の雰囲気だけでも十分恐ろしい。 16【首切り地蔵】延命寺内の刑死者供養のお地蔵様。刑死者はこの地蔵を最期に見たのである。